

# 愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2015年37週 (9月2週 9/7~9/13)

2015年8月報

愛知県感染症情報センター(愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: [eiseiken@pref.aichi.lg.jp](mailto:eiseiken@pref.aichi.lg.jp)

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

## 今週の内容

### トピックス

手足口病、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑、梅毒、集団かぜの発生  
病原体検出情報  
定点医療機関コメント  
感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症、手足口病、インフルエンザ、RSウイルス感染症等

全数把握感染症発生状況 ( )内は件数。

結核(31)、腸管出血性大腸菌感染症(3)、A型肝炎(1)、  
デング熱(2)、レジオネラ症(5)、アメーバ赤痢(1)、  
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(3)、後天性  
免疫不全症候群(1)、梅毒(4)

2015年8月報

定点把握感染症報告数(保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

## トピックス

### 手足口病(図1)【8月6日警報発令】

37週の定点当たり報告数は4.15、36週656人 37週756人(1.15倍)です。2015年に搬入され検査が終了した66検体より、CV(コクサッキーウイルス)-A6型が28件、CV-A16型が16件、CV-A10型が8件、CV-B4型・Ad(アデノウイルス)-1型が各1件検出されています。

【参考ページ】手足口病警報を発令します!!(8月6日発表)

<http://www.pref.aichi.jp/0000085567.html>

豊橋市: 手足口病が流行しています(7月13日発表)

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/item/28380.htm>

エンテロウイルス71型による手足口病に注意

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/hfmd2013.html>

疾患別ウイルス検出状況(速報)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

### A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(図2)

37週の定点当たり報告数は1.24、36週183人 37週226人(1.23倍)です。

【参考ページ】A群溶血性レンサ球菌咽頭炎について

[http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a\\_youren.html](http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/a_youren.html)

### 伝染性紅斑

伝染性紅斑はヒトパルボウイルス B19 の感染による「リンゴ病」と呼ばれることもある疾患です。

37週の定点当たり報告数は0.55、36週106人 37週101人(0.95倍)です。

【参考ページ】

豊橋市: 伝染性紅斑が流行しています(6月15日発表)

<http://www.city.toyohashi.lg.jp/item/24852.htm>

### 梅毒(図3)

2015年37週までの累積報告数(診断週集計)は67件(男52件、女15件)です。2014年37週までの累積報告数は86件(男70件、女16件)、2014年総報告数は113件(男90件、女23件)でした。

全国の2015年35週までの累積報告数は1,586件です(2014年総報告数は1,683件)。

【参考ページ】

2015年4月までの報告数増加と疫学的特徴(国立感染症研究所)

<http://www0.nih.go.jp/niid/idsc/idwr/IDWR2015/idwr2015-18-19.pdf>

### 集団かぜの発生

【参考ページ】

岡崎市: インフルエンザの集団発生について(9月2日発表)

[http://www.city.okazaki.aichi.jp/1100/1107/1146/p015463\\_d/fil/20150902influsyudann.pdf](http://www.city.okazaki.aichi.jp/1100/1107/1146/p015463_d/fil/20150902influsyudann.pdf)

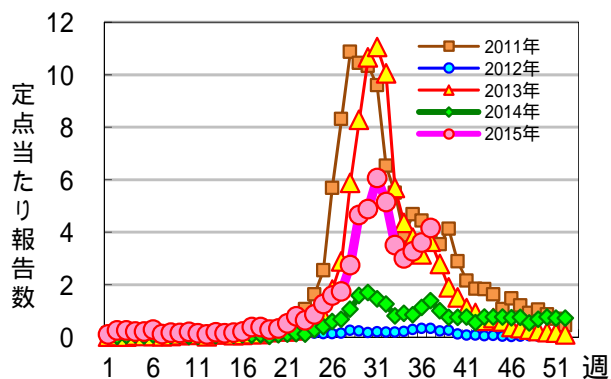


図1 手足口病

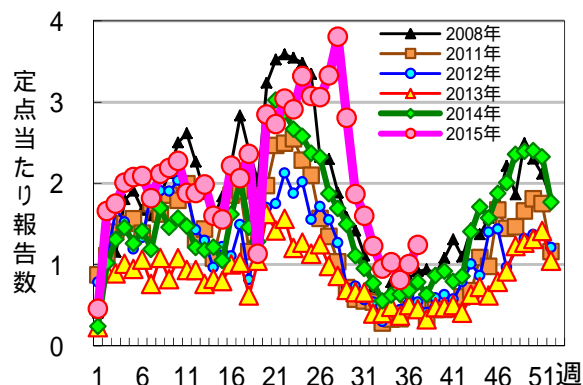


図2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

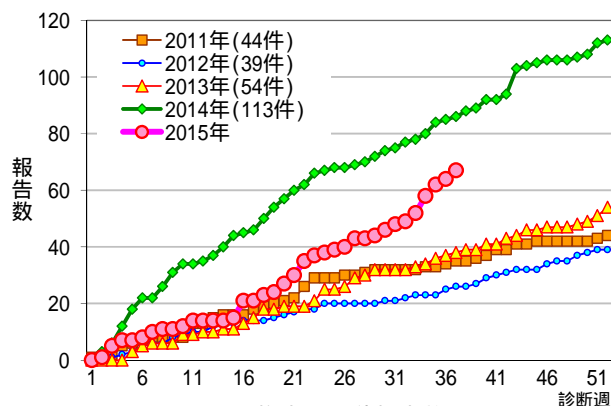


図3 梅毒の累積報告数

(愛知県、2011年-2015年第37週、9月16日現在)

病原体検出情報 2015年疾患別ウイルス検出速報 (2015年9月15日現在)

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	* インフルエンザ	** 麻疹・風疹
患者数	158	76	43	8	21	27	24	192	11(7)
CV-A6	-	28	1	-	-	-	-	-	-
CV-A10	-	8	25	-	-	-	-	-	-
CV-A16	-	16	-	-	-	-	-	-	-
CV-A9	3	-	-	-	-	3	-	-	(1)
CV-B4	-	1	-	-	-	1	-	-	-
CV-B5	-	-	-	-	-	2	-	-	-
E-11	-	-	-	-	-	1	-	-	-
E-18	2	-	2	-	-	2	-	-	-
HPeV-3	1	-	-	-	-	-	-	-	-
FluAH3	-	-	-	-	-	-	1	136	-
FluB	-	-	-	-	-	-	-	23	-
HMPV	-	-	-	-	-	-	2	-	1
Reo-2	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G1	3	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G2	25	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G3	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Rota A G9	1	-	-	-	-	-	-	-	-
NV G I	8	-	-	-	-	-	-	-	-
NV G II	51	-	-	-	-	-	-	-	-
SV	3	-	-	-	-	-	-	-	-
AstV	5	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	2	1	-	-	-	-	-	-	-
Ad-2	2	-	1	4	-	-	-	-	-
Ad-3	5	-	-	3	1	-	-	1	-
Ad-4	-	-	-	-	1	-	-	-	-
Ad-5	2	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-6	1	-	-	-	-	-	-	-	-
Ad-41	8	-	-	-	-	-	-	-	-
B19V	-	-	-	-	-	-	-	-	(1)
HSV-1	-	-	-	-	1	-	-	1	-
検査中	4	10	4	-	4	5	1	-	1
陰性	49	13	10	1	14	13	20	32	9(5)

\*インフルエンザは2014/2015シーズンの結果

\*\*麻疹・風疹の( )内は病原体定点医療機関外からの患者数の別掲

略: ウイルス名(他の略名)

Ad: アデノウイルス、AstV: アストロウイルス、B19V: ヒトパルボウイルスB19、

CV: コクサッキーウイルス(Cox.)、E: エコーウイルス、FluAH3: A香港型インフルエンザウイルス、

FluB: B型インフルエンザウイルス、HMPV: ヒトメタニューモウイルス、HPeV: ヒトパレコウイルス、

HSV-1: 単純ヘルペスウイルス1型、NV: ノロウイルス、Reo-2: レオウイルス2型、

Rota A: ロタウイルスA、SV: サボウイルス

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

先週分から 4 歳女 腸炎

カンピロバクター検出

【一宮市 あさのこどもクリニック】

手足口病増えています。

【稲沢市 こどものお医者さんおがわクリニック】

感染症落ちついています、サルモネラ 1 名  
ありました。(20 代男)

【犬山市 武内医院】

手足口病再び増加しています。

伝染性紅斑の流行続いています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

手足口病続発中 CA6、CA16 の二つあるよう  
です。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

47 歳女 病原大腸菌 O1 検出

19 歳女 インフル B

【清須市 丹羽医院】

尾張東部地区

手足口病再び増加しました。

アデノウイルス感染症も目立ちました。

その他溶連菌感染症等

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

咽頭結膜熱がまた散見されます。(5 歳男、  
29 歳男、50 歳男)

【長久手市 医療法人スズムラ眼科医院】

夏風邪は減りましたが、依然残っています。

入院では RSV がまだあります。

インフルエンザ大人小人なし

【春日井市 春日井市民病院】

マイコプラズマ気管支炎

5 歳男 7 歳男 50 代女

喘鳴を伴う感冒が増えています。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

RS ウイルス感染が 3 例、手足口病、伝染性紅斑  
などが目立ちます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

RS ウイルス感染症が 2 名出ました。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

マイコプラズマ核酸 2 歳女

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

StrepA(+) 11 歳男

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

6 歳男 サルモネラ O7

【岡崎市 にいのみ小児科】

マイコプラズマ肺炎 6 歳男(2 例)

アデノウイルス(咽) 5 歳男

インフルエンザ A が 4 例出ました。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

7 歳男 10 歳男 マイコプラズマ肺炎

17 歳男 カンピロバクター腸炎

インフルエンザ A 型 4 名

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

インフルエンザ 2 名

2 名とも A 型(同一家族)

【岡崎市 粟屋医院】

インフルエンザ感染症 6 例、全例 A 型です。

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

マイコプラズマ肺炎引き続き目立ちます。

【碧南市 永井小児クリニック】

病原性大腸菌 0 歳女(O18、VT 陰性)

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

病原性大腸菌 O1 2 歳女

病原性大腸菌 O20 3 歳女

【豊川市 ささき小児科】

マイコプラズマ 2 歳男

【田原市 愛知県厚生農業協同組合連合会渥美病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2015年9月16日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun150521.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2015年37週報告数			2015年総計(1～37週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	8	1	4	484	115	120
豊田市	1	1		48	13	13
豊橋市	1			48	8	17
岡崎市	2		1	30	11	2
一宮	1			73	26	15
瀬戸	3	1		124	19	66
半田	1			28	7	3
春日井				61	11	18
豊川				29	10	3
津島	2	1	1	75	13	27
西尾	3	1	1	25	7	4
江南	1			41	6	18
新城				11	3	5
知多				34	8	11
清須	1	1		26	11	5
衣浦東部	7	1	5	64	18	18
合計	31	7	12	1,201	286	345

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	名古屋市	53歳	女	9/4	9/7	9/10	O157、VT1(+) VT2(+)
2	名古屋市	21歳	女	9/2	9/7	9/10	O157、VT2(+)
3	津島	56歳	男	-/-	9/4	9/8	O157、VT1(+) VT2(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

A型肝炎（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	名古屋市	43歳	女	無	国内

デング熱（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	31歳	女	デング熱	インド
2	衣浦東部	36歳	男	デング熱	フィリピン

レジオネラ症（四類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染地域
1	名古屋市	73歳	男	肺炎型	国内
2	名古屋市	85歳	男	肺炎型	国内
3	岡崎市	66歳	男	肺炎型	国内
4	岡崎市	50歳	男	肺炎型	国内
5	春日井	72歳	男	ポンティアック熱型	国内

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	清須	35歳	男	腸管アメーバ症	経口	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	名古屋市	77歳	男	不明	国内	無
2	名古屋市	59歳	女	その他	国内	無
3	名古屋市	88歳	女	不明	国内	無

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	豊橋市	25歳	男	AIDS	性的接触	国内

梅毒（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	23歳	女	無症候	性的接触	国内
2	名古屋市	22歳	女	早期顕症	性的接触	国内
3	名古屋市	70歳	女	無症候	性的接触	国内
4	一宮	24歳	男	早期顕症	性的接触	国内

## 8月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況 [( )は無症状病原体保有者再掲]

2014～2015年に報告のあった 疾病名及び病型 ( )内は全数把握対象疾病数	2015年8月			2015年	2014年	
	愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>	
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	
二類 (7)	結核	87 (36)	51 (9)	138 (45)	1,134 (320)	1,867 (531)
三類 (5)	コレラ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	細菌性赤痢	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (1)	10 (0)
	腸管出血性大腸菌感染症	5 (0)	7 (0)	12 (0)	63 (13)	132 (30)
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
四類 (43)	E型肝炎	0	0	0	7	1
	A型肝炎	0	0	0	9	8
	コクシジオイデス症	0	0	0	1	0
	つつが虫病	0	0	0	0	2
	デング熱	0	0	0	5	11
	マラリア	1	0	1	2	1
	レジオネラ症	1	1	2	62	61
五類 (22)	アメーバ赤痢	1	3	4	43	68
	ウイルス性肝炎	0	0	0	12	13
	内訳 B型	0	0	0	9	12
	内訳 その他	0	0	0	3	1
	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症*	2	3	5	48	19
	急性脳炎	1	0	1	23	18
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	0	1	6	11
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	1	7	18
	後天性免疫不全症候群	3	4	7	68	98
	内訳 無症候性キャリア	2	3	5	43	65
	内訳 AIDS	1	0	1	22	32
	内訳 その他	0	1	1	3	1
	ジアルジア症	0	0	0	3	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	0	1	12	16
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	2
	侵襲性肺炎球菌感染症	4	1	5	112	122
	水痘(入院例に限る。)*	1	1	2	12	10
	梅毒	5	9	14	62	113
	内訳 無症候	3	2	5	22	50
	内訳 早期顕症	1	7	8	34	57
	内訳 晩期顕症	1	0	1	6	6
	播種性クリプトコックス症*	0	0	0	8	2
	破傷風	1	0	1	5	4
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1
	風しん	0	1	1	13	21
	麻しん	0	0	0	0	46
	総 計	115	81	196	1,724	2,681

\* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

疾病名	2015年8月			2015年 累計		2014年 総計		
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県全体 合計		愛知県全体 合計		
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	男	40	48	88	578	900	1,591
		女	41	23	64	428	691	
	性器ヘルペスウイルス感染症	男	9	9	18	155	169	643
		女	23	16	39	252	474	
	尖圭コンジローマ	男	11	12	23	148	220	347
		女	6	2	8	75	127	
	淋菌感染症	男	19	28	47	314	577	657
		女	8	3	11	45	80	
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		71	8	79	648	1,090	
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		2	0	2	68	59	
	薬剤耐性緑膿菌感染症		0	0	0	0	4	
	薬剤耐性アシネトバクター感染症		-	-	-	-	0	

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2015年8月			2015年 累計		2014年 総計	
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体		愛知県 全体	
エキノコックス症の犬	0	0	0	0		1	

感染症の類型及び定義(感染症法)

2015年5月21日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症* (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症** (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの。

\* 2015年1月21日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」及び「鳥インフルエンザ(H7N9)」が二類感染症に追加されました。

\*\* 2014年9月19日に「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。





